



## 第2号

平成14年10月25日

発行所  
福島県立二本松工業高等学校同窓会  
〒964-0937  
福島県二本松市榎戸1丁目58ノ2  
TEL 0243-23-0960  
FAX 0243-22-7388

発行者 佐藤昭次  
印 刷 株式会社丸井工文社

### CONTENTS

母校だより	12
同窓会長挨拶・学校長挨拶	10
座談会「母校を語る」	8
想い出寄稿	3
同窓会だより	2

# 福島県立二本松工業高等学校 同窓会会報

## 校歌

詞 草野心平  
曲 小山清茂

一日輪は 天にかがやき  
阿武隈は 光る動脈  
ここ榎戸の 美しき地に  
日毎集る われら若人  
腕組まん ともに  
学ばなん ともに  
真善美 ひたに求めて  
ああ母校 二本松  
われらは愛す  
われらが母校



## 同窓会長挨拶



佐藤 昭次

### プロフィール

昭和41年度卒業・土木科2期生。10年間の県職員生活を経て、現在株式会社佐藤組代表取締役社長。総合建設業として、道路、河川、下水道、建築などを施工。“地域と共に生きる”を大切にしながら、社員と共に、鋭意努力中！

創立四十周年、誠におめでとうございます。昭和三十七年四月一日、福島県立二本松工業高等学校として開校、安達高校を仮校舎として、機械、電気、各一学級で発足以来、四十年が経ちました。その間、学科、施設等の拡充をはかり、日本の高度成長時代と、地域の大きな期待に応え、信頼を得て、当地方の理想的な工業高校として歩んで来られました。心より関係各位に敬意を表するところでございます。創設当時は新設校としての基礎づくり、そして生徒指導から始まり、校風づくりに一丸となつて、努力しておられた先生方の姿が今でも鮮明に思い出されます。当時は就職希望者が主であり、本校の名前も浸透しておらず、実績が少ない中、就職活動に、学

校PRに奔走されたと聞いております。長い間の実績と信頼が、今日の高い就職率につながっております。

学び舎を共にした同窓生は、全国各地に活躍の場を広げ、社会のあらゆる分野で、重要な立場で日夜努力されておられます。又、在校生の皆さんには、多くの先輩方が残されたすばらしい伝統の中で、学業そしてスポーツにと、多いに活躍するなど名実共に県下に誇れる工業高校となりました。

## 学校長挨拶



秋山 功一

### プロフィール

いわき市出身。専門教科 英語。喜多方高、小名浜高、県南教育事務所、勿来工高、遠野高、いわき海浜自然の家、湖南高を歴任され、平成14年4月本校に着任、現在に至る。趣味は自然散策(観察)。著書『花ある記』

同窓会の皆様には、本校教育発展のために日頃よりご協力ご支援を賜り感謝申し上げます。

今回、創立四十周年を迎えた教職員・生徒一同がこの意義ある年に巡り合うことができるということは大きな喜びであります。顧みれば昭和三十七年、本県新産都市条件整備の一環として、生徒急増に伴う対応策として、また地域の強い要請により創立した本校は四十年という歴史を刻み着実にその歩みを進めてまいりました。同窓生も八千七百余名を数えるまでになり、産業界の様々な分野で大いに活躍するなど名実共に県下に誇れる工業高校となりました。

各種資料に目を通してみると、創立当時は、「間借り生活」から始まり、地域の心強い支援のもと、草創期の燃え立つ精神で教職員と生徒が一丸となつて苦楽を共にし

ながら学校づくりに励み、文武にわたって活躍した様子や良き校風と施設設備の充実を図るために歴代校長先生はじめ多くの旧教職員の皆様の教育に対する情熱と関係各位の努力の様子を伺い知ることができます。

現在、情報技術に代表される先端技術の進展や国際化等、更には少子化など社会の急激な変化に伴い、工業高校も新たな変革が求められています。「山高きが故に貴からず、樹あるをもつて貴しとなす」という言葉があるように、四十周年を機に「自立・協調・実践」の校訓に基づいて日々築いてきた伝統を受け継ぎ、社会の変化に的確に対応できる専門性を備えた有能な工業人となるよう、更に内容を伴なった歴史を積み重ねてまいりたいと思っております。

ながら学校づくりに励み、文武にわたって活躍した様子や良き校風と施設設備の充実を図るために歴代校長先生はじめ多くの旧教職員の皆様の教育に対する情熱と関係各位の努力の様子を伺い知ることができます。

# 座談会

## 母校を語る

### 「自己紹介」

渡辺 先般から皆様、お話を弾んでおりましたが、ここで自己紹介を含めまして、簡単にご挨拶をお願いいたします。

丹治 一番年をとっているので、最初に指名されましたこと、大変光榮に思っております。

実は色々と考えて参りました。創立当初という、非常に良いテーマを頂いております。

グランドを重々と眺めておりましたので、座談会の一員になつた気がします。

その頃、学校としては校長先生を中心に、先生方が話し合って「どういう学校をつくろうか」とか、「こういう風にやつて行こう」とやつて参りました。

本田 私は入学し、卒業したのは昭和四十年度です。電子科では第一期生になります。

最初電話を頂いた時、誰かがキヤンセルあつて、担当者が困つていると思い軽くOKした次第です。座談会文書を見て驚きました。

私が三年間お世話になつた菊地先生、また丹治先生のお名前もあります。座談会文書を見て驚きました。

菊地 私は昭和三十九年、本校

平成十四年九月二十日

「求真庵」にて



秋山 功一  
二本松工業高等学校長

渡辺 本日はお忙がしい中、お集まりを頂きまして、誠にありがとうございました。

母校創立四十周年を迎えて、同窓会では会報に「座談会」特集を企画いたしました。

秋山 校長先生から電話を頂いたとき、二本松工高に行けるのかと喜んで、三度参りました。

この四十年の間に、卒業生八千七百二十三名を数え、地域の産業界を担う、多くの人材を輩出しております、名実ともに、伝統校としての形態を整えて参りました。

これも偏に創立当初からの諸先生方、生徒達が一体となつて、学校づくりに取り組んできた、努力の賜ものであると、感謝いたしております。

本日は創立四十周年を記念して座談会を開き、皆様に創立当初からの様々なお話を承り、現在、本校を預かっている我々、教職員の今後の教育の参考にしたいと考えております。

秋山 本校、校長の秋山でございます。本日はお忙がしい中、座談会に旧職員の丹治元安先生、菊地暁男先生、そして、同窓生の皆様にご出席を頂きまして、誠にありがとうございました。

今日は、どうぞよろしくお願ひ申上げます。

菊地 私は昭和三十九年、本校



に教員になつて初めて来た学校です。それから十年間、昭和四十九年までお世話になりました。

た、昭和六十一年から平成二年までお世話になりました。定年を迎え居たのですが、今年になりました。

して、秋山校長先生から電話を頂き、二本松工高に行けるのかと喜んで、三度参りました。

グランドを重々と眺めておりましたので、座談会の一員になつた気がします。

だから、松工生に望むこと大きな部あります。あとでお話します。

私も二年前まで、私立高校で数学を教えておりました。今の生徒達と、どう接したら良いのか、また、色々な事を現場でやってきました。その様な事をお話し上げたいと思っています。

呼んで頂き本当にありがとうございました。

大内 岩代町小浜に住んでおります。勤務は岩代町の図書館です。

学校関係の先生方とも、色々と付き合いをさせてもらつています。

大石 私は昭和四十八年度機械科卒第十期生です。

現在二本松市のキタシバ技研

で、プレス金型関係の仕事をしてあります。元々は北芝電機に入社しましたが、オイルショックの後、その部門が独立して今日に至っています。

小・中・高校・職場と、ずっと地元です。

北芝電機には「松工会」という会があつて、第一期生からほとんどおります。合理化があつて、何年間かは入社しませんでしたが、こ

で、この工業デザイン科が出来たそうですね。

私もデザインという事に関して、本当に意味がわからず、ただ名前だけに魅力を引かれて入学し、製図を書いたり、写真を撮ったり、また、画を描いたり、色々とさせて頂いたんですけど、私の考えていたデザインとは、ちょっと違うので戸惑いを持ちました。

今、松川でレストランをやつ

ていて、店内に絵とか、いろんな物を飾つて置くんです。高校で三

年間習つた絵画とか、とても今役立つてゐると思います。

私は入社した時、先輩がいて、非常に心強いというか、心の支えになつていていたという感じがします。第十期生という区切りの良い

所でお役に立てることがあれば、

よろしくお願ひします。

斎藤 私は場違いという感じなのですぐ、私で力になれればといふことで出て来ました。

私は工業デザイン科の第一期でうございました。

校長先生、何かお話をいただけます。当時、女性がこれからは社会

に出て、第一線で働いて行かなければならぬ。そういう趣旨の基

秋山 今日は楽しみにして

います。十周年あるいは二十周

年、三十周年、それぞれの「記念のしおり」がありますがそれらを

見て、本校の歴史や学校づくりの苦労した部分をこのようない資料によつて知るだけでありますので、今日は「生」のお話が聞けるという

事で、非常に楽しみにしております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

## 創立当初の様子は



本田 健一  
S40年度卒  
電子科第1期生  
㈲本田電機商会経営

本田 私達が入学した頃は、校

舎がなく一学期岳下小学校で間借りしていました。

小学生にはよろしくない事もやつたようで、叱りを受けたこともありました。また、真夏の暑

い日は水不足でした。小学生は水筒持参で登校していました。

自分達の学校がでけて引越しの時自分の机、椅子を持って岳下小

学校から運んで来たと言うのが、強く記憶に残っています。良い思い出です。

一期生の場合は安達高校に間借りしていましたし、校章もバッチ（科章）もないので「お前、どこの学生だ」と相当にいびられたよう

す。また、こんな事も言つていま

した。後輩が入学してきたら、親方は、もう本当に厳しくて、私達は気合いをかけられました。



丹治 元安  
元土木科教諭

うです。岳下小間借り時代は、体育の授業というと、縄とび、マット運動でした。こちらに来てからも体育館がなかつたので、よく走らされました。喜古五郎先生によく怒鳴られました。走るかマット運動、バレー、ボール、バスケット

が体育の授業でした。

実習はほとんど器具もなく、一つのテーブルに十名から二十名集められた実習でした。自分から率运动、バレー、ボール、バスケット

が体育の授業でした。

実習はほとんど器具もなく、一つのテーブルに十名から二十名集められた実習でした。自分から率运动、バレー、ボール、バスケット

が体育の授業でした。

実習はほとんど器具もなく、一つのテーブルに十名から二十名集められた実習でした。自分から率运动、バレー、ボール、バスケット



で、色々な事をやりました。

写真は専門分野で現像もやり、文字デザインも細かくやつたし、製図では金谷光男先生が厳しく指導してくれました。また、絵画も百号という大きい物まで描きました。夜遅くまで提出物や勉強を教えた。夜遅くまで提出物や勉強を教えた。

忙がしくて、男子の中に居るという意識は無く、あらゆる教科に燃焼しなければならないという意識が大きかったです。忘れられないのは、提出物を寝ないで、もう一度書き直しをした。悔しさを何回も感じました。

渡辺 私も一期生の製図で手伝わせてもらいました。科長の松本先生は、一期生がしつかりやつてくれると、進路先と連りが生れ、うまく行くのだから、男子と同じ辛い思いをしながら、基礎造りをされたと思います。

渡辺 当時の週番活動はどうで

## 「一年生は坊主頭」



大石 忠雄  
S48年度卒  
機械科第10期生  
キタシバ技研KK勤務

年の二年間、文部省生徒指導研究推進校に指定され、中間発表と発表会を開催しました。生徒指導のモデル校でした。全国から沢山おいでになられました。

渡辺 大石さんの入学された昭和四十六年頃の松工はどうでしたか。



菊地 同窓会事務局長  
保夫  
進行 渡辺  
S41年度卒  
土木科第2期生

渡辺 職員週番二名、各クラス二名毎朝昇降口、校門に別れ、生徒同志が挨拶を交わしていました。放課後も毎日反省会を開いていました。

渡辺 時の部活動はどうだったでしようか。

本田 生徒指導が徹底していました。放課後も毎日反省会を開いていました。放課後も毎日反省会を開いていました。放課後も毎日反省会を開いていました。

秋山 創立当時の様子。それから女子が入って来た様子。自立の時期など、全て無から有を生み出します。そういう先生達の熱意と、そして、生徒達の非常に前向きな熱意を感じて、私も学ぶべき所がたくさんありました。

全員 大変すばらしいことだと輩が顔見知りになりました。

菊地 地域の方部会で、芋煮会などやつて楽しい思い出があります。

した。

菊地 大部以前から活動してい

て、他からは珍らしかったようで、県内の他校から見学に来ていました。

た。

渡辺 創立まもなくから生徒方部会が中学別にありました。保護者、生徒の方部会二つがありました。

大変すばらしいのですが、この活躍を先輩はどのように受け止めておられますか。

いて、大変嬉しく思いました。

菊地 現在はカヌー部の活躍が

大変すばらしいのですが、この活躍を先輩はどのように受け止めておられますか。

秋山 創立当時の様子。それから女子が入って来た様子。自立の時期など、全て無から有を生み出します。そういう先生達の熱意と、そして、生徒達の非常に前向きな熱意を感じて、私も学ぶべき所がたくさんありました。

全員 大変すばらしいことだと

粘り強さが必要です。

丹治 土木は勤めると、体力と

粘り強さが必要です。

マラソン大会とか、駅伝大会には大変力を入れました。

生徒も協力してくれ、勉強以上に頑張れということで、担任が生徒と一緒に走つたりして、大体土木科が優勝していました。

現在は、頭の良い人より、皆と仲良くやって行ける人、身体が丈夫な人、やる気のある人が望まれ

いて、大変嬉しく思いました。

菊地 別件ですが、方部会で地

域の人の期待というのが凄く感じ

られたのですが。方部会はいつ頃

からあつたのですか。

菊地 別件ですが、方部会で地

しては、かなり厳しかった気がし

ます。

菊地 別件ですが、方部会で地

しては、かなり厳しかった気がし

ているようです。

大石 十キロマラソン大会とか、全校安達太良登山などがありました。

渡辺 登山は二度ほど見直しを

して現在は一年生だけが実施しています。

秋山 先ほどのお話もありま

したが、計算尺のように素晴らしい実績を残されたとお聞きしましたが、今は資格取得は特に大切と

考えますが特別な指導、また、何

らかの方法があつたのですか。

菊地 最初は施設設備がなく

て、電気工事士試験は電気科は当

然とし電子科、土木科の生徒も一

緒になって勉強して、実技も合格

していました。

本田 三年生の合格している生

徒が後輩を指導していました。

また、先生方も若かつたので、夜遅くまで教えていただきました。

秋山 先輩が後輩を指導する。

それは良い事ですね。

本田 松工の伝統は自分達で造

るんだ」という意気込みがありま

した。応援歌(奮起、決戦譜)は

公募でしたから、私と同年代の連

中が作詞しました。

丹治 授業中は勝手なおしゃべりを慎んで、熱心に学習に励んで

和、岩代、二本松、学校区間、全

りを慎んで、熱心に学習に励んで

欲しい。先生と一緒にあって、自

分達の良い学校をつくって欲し

い。

渡辺 最後の伺いをしたいと思

います。母校の後輩に期待するこ

と。また、望むこと。アドバイス

を頂きたいと思います。

齊藤 社会の中で働くと身だし

なみは大切になってしまいます。

髪をきちんとすると、爪をきちんと

と切る、服装を正す、この事は学

生も社会人も共通して大切なこと

です。

これは、生徒達に人間として必

要な最低の資質を身に付けさせよ

うとするねらいで、現状では欠け

ている事ではないかと思います。

大石 企業(会社)でも毎年採

た事柄や、高校での体験、勉強、

下手でもやり通した事は、今後の

人生に決して無駄では無かつたと

思います。

菊地 図面を書く時、コン

ピュータCAD等に頼らず、先

づ、ドラフターなどで、自分の手

を使って、基礎、基本をしっかりと

身に付けることも大切である。

本田 先づ英語、数学の勉強。

専門の基礎、基本をしっかりと身

に付けて卒業していただきたい。

大内 昔、駅伝で拳を握り走つ

た事を参考して行きたいと思いま

す。今迄の節目、節目の所のお話

と、先にも言いましたが、本当に

疾風の如く通り抜ける松工生。

これは駅伝大会(学校、東

教師と生徒が一体になつていたと

## 「後輩に期待すること」





昭和39年 青木整形外科建設前の風景

## 思い遙かに

昭和三十九年度生徒会長

荒川 好一

卒業して早や三十六年が過ぎました。仕事で同期生に会うことがあります。顔を見合わせている内に、坊主頭のお互いを思い出します。科は違っていても不思議と覚えています。

私達の入学時は人口が多く、高校進学も急増し、施設、設備が間に合わなかつた時代です。新設校ですので、先生方は松工を理想とする校風づくりのために心を込めて指導されておられました。

入学時は校舎が完成しておらず、

岳下小学校の仮校舎で勉強しました。新校舎への引越しに机を担いで歩きました。生徒会活動では会則

改正で紛糾し臨時総会まで開いたこと、第1回校内競技大会の企画や、生徒会誌「くろがね第3号」発行にも係わりました。皆で何かを擱んで羽ばたこうとした氣概が感じられました。

やがて卒業、未完成の体育館で行されました。

今は松工生の活躍を期待し、益々の母校発展充実を望む次第です。

## 「親友」との出会い

昭和四十八年度生徒会長

笹山 章

創立四十周年を迎えて、本当に初めてどうござります。

早いもので卒業して三十年になります。松工卒業後、東京で公務員となり、帰省して郡山の土木会社に入り、二十数年、現在に至っています。

「松工」の思い出として、校内マラソン大会、安達太良登山、体育祭、球技大会、修学旅行等といろいろあります。私がおいては、親友との出合いだつたと思います。良いこと悪いこと、何をするにも一所、そういう毎日だつた気がします。

テスト前、集つて勉強の予定が話がはずみ勉強にならず、遊んでしまいました。また、ツーリングに行つ

## 大切な思い出

昭和五十八年度生徒会副会長

佐藤 裕美子  
(旧姓高橋)

創立四十周年を迎えるにあたり、諸先生方をはじめ、日頃より母校、同窓会発展の為にご尽力を頂いている会長ならびに諸先輩方に、厚くお礼申し上げます。

昭和48年 全校マラソン大会  
マラソン大会は平成7年まで続いたが交通事情によって現在は行っていない。

たり、キャンプをしたりと、本当に楽しい事ばかり思い出します。そういう親友と今でも集まつて、酒を飲んだり、忘年会をしたりしています。

松工での三年間、親友を得ることの出来た、貴重な時間だったと感謝しています。今後も、親友を大事にして行きたいと思います。



昭和58年 卒業アルバムより

## 卒業を振り返って

私が松工に在籍していた約十年前 平成五年度生徒会書記長 高橋 周平

この場をかりて、高校時代へタイムスリップ。「一人も欠けることなく四十人全員で卒業しよう」担任の小原先生のこの言葉で、高校生活がスタートしました。とにかく何をして行きたいと思います。

事にも真正面からぶつかつていったあの頃。それなりに数々の事件もありました。その度に先生の大きな瞳を濡らすことに。それでも私達から逃げることなく、お互いが納得するまで話し合い、共に泣いた時も。もちろん楽しかった事も沢山ありました。そんな三年間が社会に出てからの励みになつたり、支えになつたり。そんないろいろなことを教えてくれたクラスメートはどうしているでしょう。みんな今を前向きに精一杯生きているでしょうね。いつか全員で会いたいです。楽しかった日々を送った松工でした。

は、今にして思うと不景気の波が少しづつ忍び寄ってきていました。高校生活での思い出としてまず頭に浮かぶのは、パソコンの実習風景です。当時のパソコンは、大変高価なもので、現在の様に一家に一台、一人一台など想像もつかない時代で物珍しく、難しくても楽しみな授業でした。その時学んだ基本が今の自分の職業に大いに役立っています。普通高校では出来なかつた、テレビの構造や電気配線の仕組などを学べた事も、思わぬ時に役立ち自分



平成5年マイコン室にはMS-DOS

に取つて財産になつています。

又、エイズ問題が大いに取り上げられていました。その問題について福島で高校生としてのシンポジュームが開催され、それに参加する機会を（半ば強引に）与えて頂き、大勢

の人々の前で上がりながらも、発表した事も、今となつては懐かしい思い出となつています。

あつという間の三年間でしたが、当時の仲間とは、現在も、お盆や正月に集まって旧交を温めています。



平成14年2月 鉄地川原、山田両氏に同窓会特別賞が渡された。

### 三年間を振り返つて

平成十三年度機械科卒業

鉄地川原 歩

僕にとって高校三年間というものは、自分の人生において転機と言える三年間だったと思う。それは、カヌーとの出会いです。艇に乗れるようになりたい、大会に出場したい、大会で勝ちたい、と一つ一つの事に對して目標を持ち、努力することを教えてもらいました。

そして、日本国内の大変だけではなく海外の大会にも出場することが出来ました。高校三大大会と言われる、文化祭終了後、私は思いつきり楽しむことができたという満足感から自然に涙がこぼれきました。完全

燃烧できたくろがね祭は私の一番の思い出です。

私は三年間の学校生活で一番の思い出は、昨年、開催されたくろがね祭です。

私にとって文化祭は小・中学校にはなかつたので、このくろがね祭が最初の文化祭でもありました。その為この文化祭を一生忘れられないものにしようと思い、生徒会役員でもあつたのでいろいろなイベントを提案していました。くろがね祭のオープニングにヨサコイソーランをやると決まった時、私はあまりやる気が起きませんでした。しかし、しばらくして、ヨサコイのビデオを見ることになりました。それから私はやりやる気になりました。一番の理由は、ヨサコイには躍動感があつて、自由に踊ることができます。その後、私は振りを覚え本番を迎える晴らしい演技ができました。

文化祭終了後、私は思いつきり楽しむことができたという満足感から自然に涙がこぼれきました。完全

ニアオリンピックカップ)、国民体育大会で三冠と言う成績は自分にとっても自信につながったと思います。そして、全国に沢山の友達があり、カヌーを通していろんな出会いがありました。僕にとってカヌーとは、宝物といえるものです。

### 三年間を振り返つて

平成十三年度工業デザイン科卒業

山田 仁美

私は、「日本一になる」という目標を立て、この三年間自分に出来る限りのあらゆるトレーニングに励んできました。夏や冬の厳しい練習や、練習場までの約十kmの山道を毎日自転車で往復するということは、言葉にならない程の辛さでした。

しかし、これらの練習に耐えたお陰で、目標だった、全国高校選手権や国民体育大会で優勝することができます。またスペインやドイツ、スロバキアでの国際大会に出場しました。またスペインやドイツ、世界の人々とレースをするなど、多くの素晴らしい経験ができました。

このような、数々の大会や海外での国際大会に出場することができたのも、先生方や同窓会の方々のお陰だと思っています。本当にありがとうございました。

## 二本松工業高校の思い出

平成十四年度生徒会長 渡邊 潤

燃焼できたくろがね祭は私の一番の思い出です。

私は三年間の学校生活で一番の思い出は、昨年、開催されたくろがね祭です。

僕にとって文化祭は小・中学校にはなかつたので、このくろがね祭が最初の文化祭でもありました。その為この文化祭を一生忘れられないものにしようと思い、生徒会役員でもあつたのでいろいろなイベントを提案していました。くろがね祭のオープニングにヨサコイソーランをやると決まった時、私はあまりやる気が起きませんでした。しかし、しばらくして、ヨサコイのビデオを見ることになりました。それから私はやりやる気になりました。一番の理由は、ヨサコイには躍動感があつて、自由に踊ることができます。その後、私は振りを覚え本番を迎える晴らしい演技ができました。

文化祭終了後、私は思いつきり楽しむことができたという満足感から自然に涙がこぼれきました。完全



機械科A組	斎藤 雅輝
機械科B組	高島 広行
電気科	齋藤 美智夫
電子科	武藤 岳史
土木科	日下部辰徳
工業デザイン科	郁

第三八回同窓会入会式は二月二十八日、母校体育館で行われました。佐藤同窓会会长より次の皆さんに幹事に任命されました。よろしくお願い致します。

## ■ 同窓会入会式 ■



## ■ 総会報告 ■

平成十四年度同窓会総会は、秋山校長先生、根本教頭先生のご臨席を賜り、七月二十七日（土）ウェディングパレスかねすいで行われました。

収支決算・予算は下記のとおりです。役員改選において永年副会長でありました市川公男氏が退任され、野地勇雄氏が新任されました。

次に、母校創立四十周年同窓会記念事業である校訓碑の建立について渡辺事務局長より説明がありました。詳しくは左ページをご覧下さい。

### 平成14年度 同窓会収支予算書

#### 1 収入の部 1,906,000円

科 目	13年度予算額	14年度予算額	増 減	備 考
会 費	1,130,000	1,105,000	△ 25,000	221人×5,000円
入 会 金	480,000	454,000	△ 26,000	227人×2,000円
雑 収 入	27	45	18	預金利息
繰 越 金	101,973	346,955	244,982	
計	1,712,000	1,906,000	194,000	

#### 2 支出の部 1,906,000円

科 目	13年度予算額	14年度予算額	増 減	備 考
会 議 費	300,000	250,000	△ 50,000	役員会、同窓会総会
行 事 費	50,000	100,000	50,000	入会式
通 信 費	100,000	100,000	0	ハガキ、切手
会 報 費	400,000	300,000	△100,000	会報発行費
慶 忌 費	110,000	100,000	△ 10,000	
記念品費	210,000	210,000	0	卒業記念品(バインダー)
後 援 費	270,000	550,000	280,000	激励金、応援広告、記念式典
事 業 積 立 金	200,000	200,000	0	
事 務 費	60,000	80,000	20,000	データ入力費、事務用品
予 備 費	12,000	16,000	4,000	
計	1,712,000	1,906,000	194,000	

歳出予算科目に過不足が生じたときは、会長に限り各科目間において流用することが出来る。

### 平成13年度 同窓会収支決算書

#### 1 収入の部 1,697,065円

科 目	13年度予算額	13年度決算額	増 減	備 考
会 費	1,130,000	1,115,000	△ 15,000	223人×5,000円
入 会 金	480,000	480,000	0	240人×2,000円
雑 収 入	27	92	65	預金利息
繰 越 金	101,973	101,973	0	前年度繰越金
計	1,712,000	1,697,065	△ 14,935	

#### 2 支出の部 1,350,110円

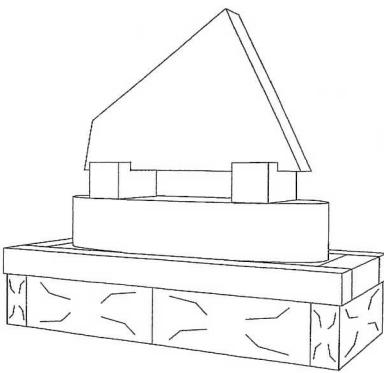
科 目	13年度予算額	13年度決算額	増 減	備 考
会 議 費	300,000	129,140	170,860	役員会、同窓会総会
行 事 費	50,000	18,000	32,000	入会式
通 信 費	100,000	86,520	13,480	ハガキ、切手
会 報 費	400,000	176,610	223,390	会報発行費
慶 忌 費	110,000	55,000	55,000	香典、その他
記念品費	210,000	197,421	12,579	卒業記念品
後 援 費	270,000	224,700	45,300	激励金、広告、くろがね祭
事 業 積 立 金	200,000	400,000	△200,000	
事 務 費	60,000	62,719	△2,719	データ入力費、事務用品
予 備 費	12,000	0	12,000	
計	1,712,000	1,350,110	361,890	

#### 3 残額 346,955円

## ■ 平成14年度役員 ■

役 職	氏 名	卒年	卒科
会 長	佐藤 昭次	昭41	土
副会長	佐藤 忠司	昭40	土
	津田 吉子	昭48	デ
	野地 勇雄	昭43	電
監 事	丹治 茂雄	昭40	機
	大内 正人	昭44	電
	鈴木 昭市	昭49	土
	菊地 清義	昭44	電
会 計	本多 真道	昭42	土
理 事	野地 一司	昭44	機
	山川 博徳	昭55	土
	丹野 勇弥	平7	土
	菅野 吉三	昭42	機
	星 光	昭42	機
	佐藤 智子	昭47	デ
	半澤 秋子	昭48	デ
	尾形 巳芳	昭47	電
	鈴木 新栄	昭57	機
	渡辺 和成	昭39	機
	大内 庄五郎	昭41	子
	安齋 喜八	昭42	土
	朝倉 宏揮	昭62	土
	阿部 昭一	昭42	土
	高橋 薫	昭49	機
	高橋 周平	平5	子
	佐々木久美子	昭57	デ
	渡辺 恵美子	昭57	デ
	大内 友子	昭59	デ

顧問 鈴木清治（初代会長）  
阿相利和（前会長）  
秋山功一（母校校長）



創立四十周年同窓会記念事業  
**校訓碑の建立**

校訓 自立 協調 実践	贈 同窓会
4. 経費 同窓会特別会計（事業積立金）より支出する。	5. 石工 小沢石材本店 小沢源太郎（昭和六十年度土木科大安日）
6. 完成予定 平成十四年十月二十六日（土） 二十一期卒業	

**校訓碑の建立**

- 設置場所 前庭（旅立ちの朝の左側）
- 形式 自然石とみかげ石の組み合わせ
- 内容 創立四十周年記念

母校創立記念の際、同窓会も共催させていたが、創立二十周年「校歌碑」創立三十周年「銅板による校章・学校名」と記念事業をしてまいりました。

この度、創立四十周年記念を立案されました。折り、同窓会として、前回同様記念事業を実施することに承認をいただき、会として昨年度より検討してまいりました。

同窓会記念事業「校訓碑」の建立に決定いたしましたので、ご理解をいただきたいと思います。

この度、創立四十周年記念を立案されましたが、同窓会として、前回同様記念事業を実施することに承認をいただき、会として昨年度より検討してまいりました。

計画はしましたが、談話内容や人選が遅々として決定しませんでした。時間は迫り、漠然とした談話内容で恐る恐る電話交渉をしました。当時を詳しく知っている方を推薦して頂いたり、こちらの不手際を笑顔で返し下さり、すっかり恩師や先輩に甘えてしまった。

当日、出席者は久しぶりの再会に旧交をあたため、座談会が始まりますと緊張された様子でした

## 編集後記

初めて、お忙しい中座談会にご出席頂いた方々、原稿をお寄せ頂きました方々にお礼申し上げます。

母校は今年、創立して四十年になります。今後、二本松工業高校は大きな変貌を迎えると思われます。

この過渡期に会報を発刊するにあたり、これまでの母校の姿を活字に残したいと言う思いから、現職員と恩師、同窓生を交えた座談会を開催したいと昨年から考えておりました。沿革史的な座談会よ

り、卒業生が母校で過ごした三年間の息遣いが感じられるものを見込んでいました。

計画はしましたが、談話内容や人選が遅々として決定しませんでした。時間は迫り、漠然とした談話内容で恐る恐る電話交渉をしました。当時を詳しく知っている方を推薦して頂いたり、こちらの不手際を笑顔で返し下さり、すっかり恩師や先輩に甘えてしまった。

当日、出席者は久しぶりの再会に旧交をあたため、座談会が始まりますと緊張された様子でした

和気あいあいの内に終了する事が出来ました。

二時間三十分の座談会のテープを七日半の徹夜でワープロに起こした某編集委員は腱鞘炎になつたのではないか。又、紙面のではあります。この都合、話された内容をそのままに語順を替える作業を渡辺保夫先生にお手伝い頂きました。

座談会後、大内正人さんが担任であつた菊池暁男先生に『自分が親になって、先生が言っていた事が分かりました。あの時は大変失礼をしてしまいました。』と詫びられ、菊池先生も『私もある頃まだ子供が無く、気持ちを分かってやれませんでした。』と詫びられたのが印象的でした。

事務局では多数の同窓生に会報を読んで頂ける様、準備しております。クラス会や社内の同窓会などにご活用ください。（石）

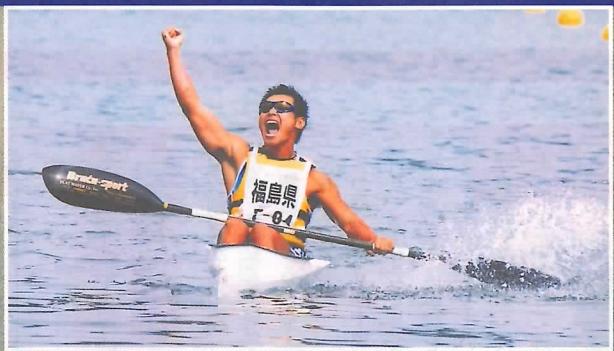
会報編集委員

鈴木 新栄

高橋 周平  
本田 大柳 正三  
石田恵美子

母校より

3年機械科A組 佐藤滋君は『よさこい高知国体』カヌー競技のレーシング少年男子カヤックシングル200mと500mで優勝。全国高等学校カヌー選手権と文部大臣杯日本ジュニアカヌー選手権大会でも500mで優勝しており、三冠を制した。来年8月、石川で開かれる世界ジュニア選手権大会での入賞を目指し練習に励んでいる。



第9回県高校ロボット競技大会で、本校『松工ベッカム』チームは三位となり、11月3日に花巻市で開かれる全国大会に出場する。

1年土木科 松山輝貴君は、県高校水泳競技200m個人メドレーと県高新人戦の400m個人メドレーで二位となり、共に東北大会に出場した。



ふくしまユニバーサルデザインフェスティバル2002において、工業デザイン科が教育部門・優秀賞に選ばれた。



本校バスケットボール部は県高校で準決勝まで勝ち進み四位となつた。また県総体でもベスト8に入った。



## 福島県 産業教育フェア 専門学科に学ぶ県内高校生の祭典

